

「秩父市移動支援プロジェクト～未来へ紡ぐ結いまち～」 地域まちづくり計画

令和5年3月
(令和7年9月更新)
秩父市

まちづくりにおける課題

東京圏へのアクセスもよく自然に囲まれ、歴史文化あふれる観光地として有名な一方、山間地域が多く、住民の高齢化により、災害発生時や日常生活における生活交通・物流等の生活インフラの維持が困難な点が課題である。「買い物弱者」や「交通弱者」への対応の強化、生活インフラとしての効率的な物流ネットワークの構築が求められる他、医師不足に伴う地域医療の問題や、公共交通の確保、物流に関わる人材の不足等による山間地域の配送効率の低下が懸念されており、持続可能なサービスモデルの構築が求められる。

まちづくりの方向性

秩父市は「豊かなまち、環境文化都市ちちぶ」を目指し、すべての人が安心して住み続けられるまちづくりの推進を基本方針に掲げている。未来技術を活用した先端産業分野に取り組み、「ヒトとモノ」の移動の困難さに着目した山間地域における物流・公共交通ネットワーク「秩父モデル」の構築を行う。山間地域の住民や観光客等の利便性の向上を目指すとともに、新たな事業や産業を誘致することにより雇用の創出につなげ、人口の減少・流出を食い止め、地域の活力を生み出していく。

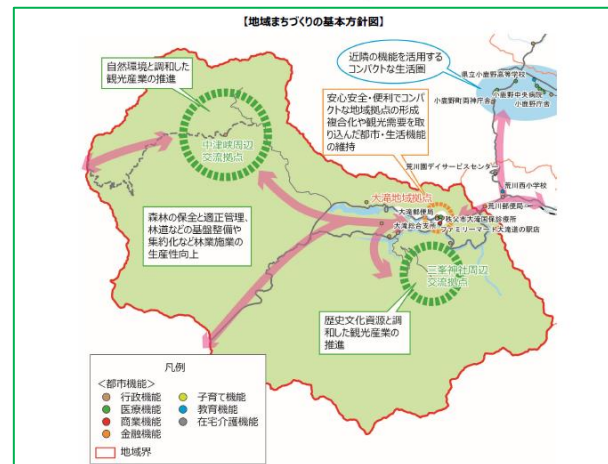
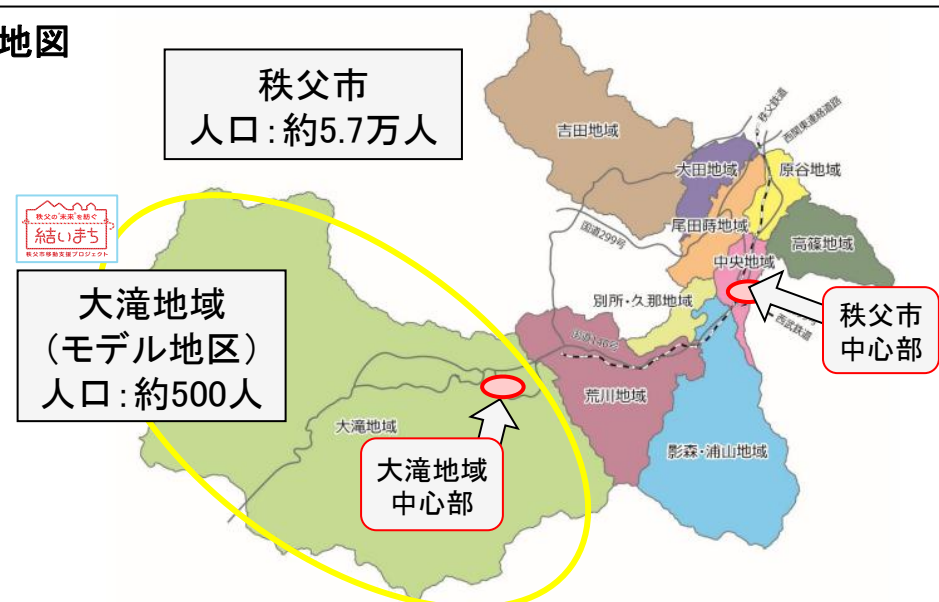
他の計画における位置付け

- ・第3期秩父市総合戦略
- ・秩父市都市計画マスタープラン
- ・秩父市個別施設計画
- ・秩父市公共施設等総合管理計画
- ・ちちぶ定住自立圏共生ビジョン
- ・秩父市立地適正化計画
- ・秩父市山村振興計画
- ・秩父市地域公共交通計画

対象地域の位置及び区域

秩父市大滝地域をモデル地区とし、将来的には秩父地域広域へ横展開を想定

地图



地域の現況

人口・世帯の状況

人口 (R7.9.1)	総数 56,534人
	(男性)27,716人
	(女性)28,818人
世帯数	26,020世帯

秩父市は、少子高齢化や若年層を中心とした都市部への人口流出による人口減少の進行が課題となっている。市の総人口を国勢調査の結果で見ると、昭和55年(1980年)の76,872人から平成22年(2010年)には66,932人となり、30年で約10,000人も人口減少となった。この人口推移をもとにした国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では、令和22年(2040年)の総人口は44,721人まで減少する見込みとなっている。また、年齢層の人口割合は令和22年には、年少人口(15歳未満人口)が1割程度に減少し、高齢人口(65歳以上人口)が4割超になると見込まれ、少子高齢化の進行が予測される。

開発の状況

秩父圏域を支える中心拠点では、駅周辺や幹線道路の沿道に商業用地が分布する市街地が形成されているが、中心部は人口減少や高齢化に伴って市街地のスポンジ化が進行している。秩父駅に近接した国道140号の東側には、セメント工場の大規模な跡地があり、その有効活用に向けた取り組みが進められている。大滝地域では、小さな拠点事業として再整備した大滝総合支所と、隣接する道の駅大滝温泉周辺が、大滝地域における地域生活を支える拠点としての性格を有しており、令和2年にはコンビニエンスストアがオープンした。一方、当地域は令和22年には地域人口が100～300人程度へ減少することが予測されており、観光需要を取り込みつつ、どのようにIoT・ICTを活用しながら機能の維持を図るかが課題となっている。

地域交通の状況

秩父市では西武鉄道、秩父鉄道の鉄道2路線が運行しており、西武秩父駅などを起点に路線バスが市内の各地域や地区を結んでいる。鉄道は、市内及び市外の広域的な都市間移動を支える基幹的な公共交通であり、非常に重要な役割を担っている。一方、路線バスは、地域住民の足として市内をカバーしているものの、利用が減少し、その維持・確保が困難になっているなどの課題を抱えている。

また、現在の市民の移動手段は自家用車が中心であるが、今後、高齢者の運転免許証の自主返納が増加することも見込まれる。そのため、中心拠点と各地域や地区を結び、また、地域内の移動に資する鉄道、バス、タクシーなどの公共交通手段などの二次交通を維持・確保していくことが重要である。

地域資源

秩父市は都心から特急で約80分に位置し、荒川の清流と秩父盆地を中心とした山々に囲まれた自然豊かな地域である。花々やハイキング、川遊び、キャンプ等、秩父夜祭、龍勢祭、川瀬祭や小さな地域の祭りまで、一年を通して楽しめる観光地であり、観光客の来訪者数は年間約600万人にのぼる。

大滝地域にはパワースポットで話題の三峯神社があり、紅葉シーズン等では、渋滞が発生するほど人気となっている。



羊山公園芝桜の丘
(4月中旬～GW)



秩父ミュージックパークから望む雲海
(シーズン:10月～11月)



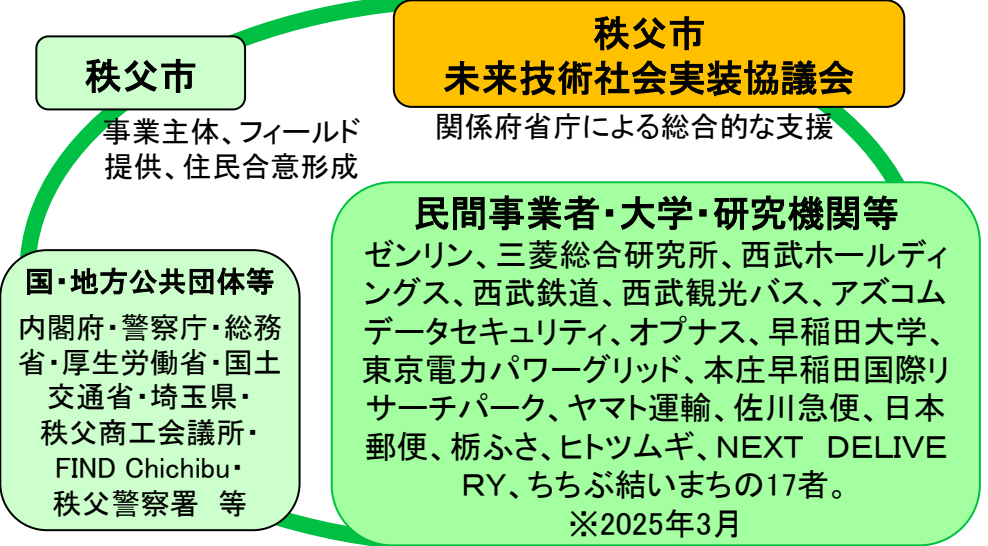
秩父夜祭
(12月2日・3日)

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

秩父市大滝地域において、山間過疎地域での先駆的な物流モデルの社会実装を目指す。平時における買い物支援はもとより、災害時に威力を発揮する効率的な物資配送手段となるドローンを活用するほか、同時に様々なトラックやバスなどのモビリティを組み合わせた持続可能な体制を構築する。また、災害時の電源としても活用が期待できる電気自動車(EV)なども組み合わせ、地域住民の生活インフラの維持と観光地という特性も生かした交流人口の利便性の向上に資する物流・公共交通ネットワークを構築する。

推進体制

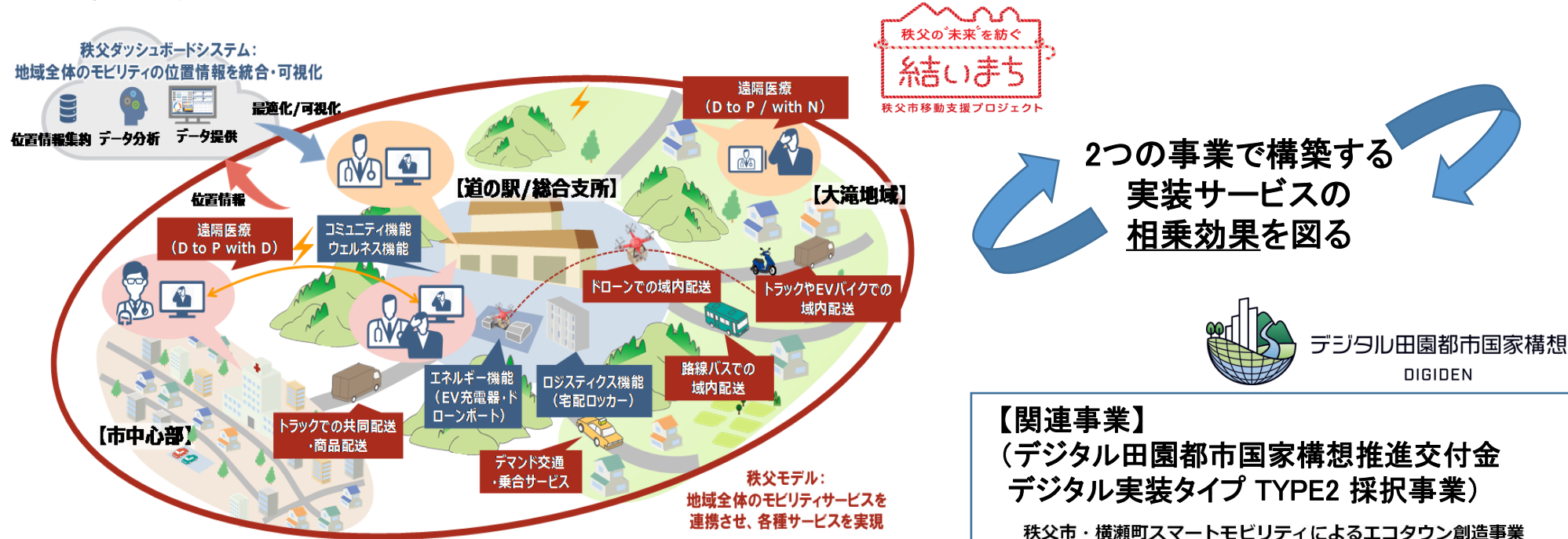


事業全体の概要

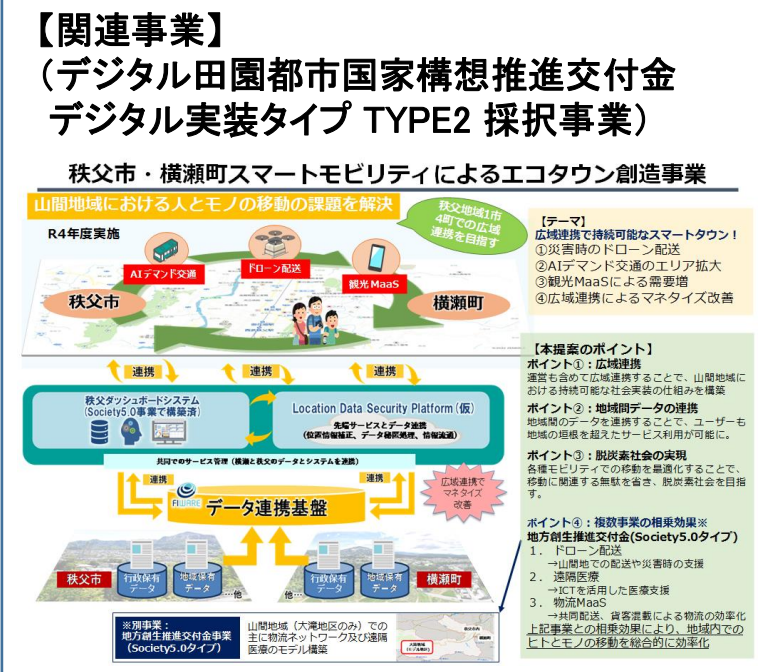
- 【コンパクト】地域拠点を中心としたコンパクトなまちづくり**
- ・地域の交通や物流の結節点を拠点としたコンパクトかつ災害時にも強いまちづくりを実現
 - ・共同配送や貨客混載の実現により、住民の移動手段と物流網を融合したコンパクトな仕組みを目指す。
 - ・地域間を公共交通機関に加え、EVを活用したカーシェアリングなど新たな選択肢を増やし、人々が移動しやすいコンパクトな街づくりを目指す。
- 【スマート】ヒトとモノの動きをIoT技術で融合し、最適化と利便性向上を目指す仕組みづくり**
- ・多様な位置情報の収集や提供の仕組みを、共通インターフェースでヒトやモノの動きを可視化し、分析情報、提供するシステムを「秩父ダッシュボードシステム」として開発し、活用を目指す。
 - ・上記のシステムと連携する観光型MaaSの運用から、自家用車を中心とした観光客の流れを公共交通の利用へ転換させるほか、インバウンド需要も見据えた先進的な取り組みとする。
 - ・医療難民の課題を解決すべく、遠隔医療サービスの環境整備を実現する。
 - ・既存の物流網とドローンや自動走行技術を組み合わせる。
- 【レジリエント】平常時でも災害時でも活用できる脱炭素社会に向けた新しい仕組みづくり**
- ・EVの蓄電池機能を有する利点を活かし、災害時の電源確保の役割も担うEVカーシェアリングを導入
 - ・賑わい拠点にEV電力とドローンポートの結節点となる仕組みの整備を行う。
 - ・EVに係る車両や充電設備については民間事業者と連携したシェアリングの仕組みを構築する。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

事業全体の概要(イメージ図)

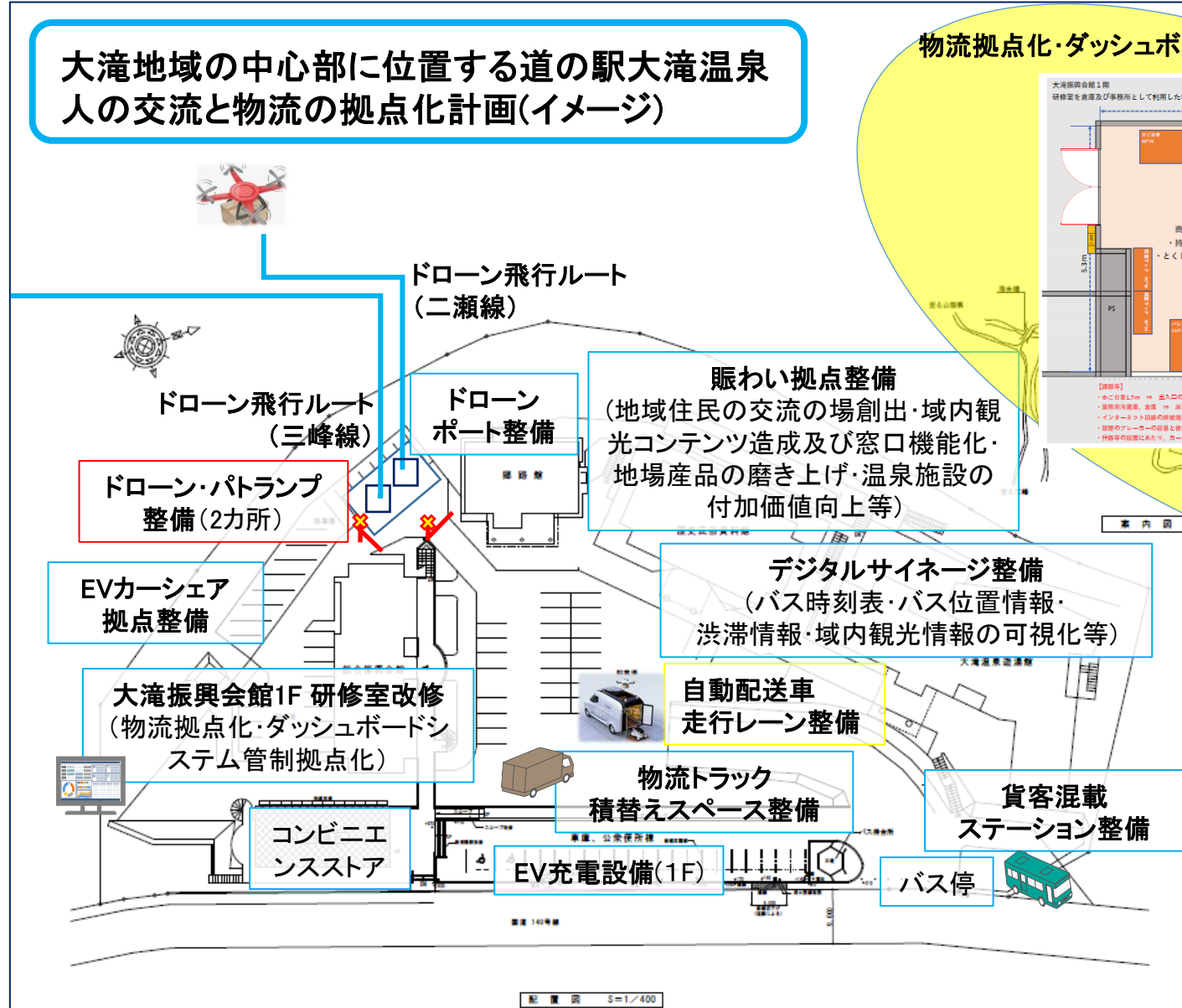


事業名	秩父市移動支援プロジェクト ～未来へ紡ぐ結びまち～	秩父市・横瀬町スマートモビリティによるエコタウン創造事業
事業主体	秩父市	秩父市・横瀬町の広域連携
事業年度	R2～R6年度(5年間)	R4年度
対象地域	秩父市大滝地域	秩父市・横瀬町
実装サービス	・ドローン配送(平時・災害時) ・遠隔医療 ・物流MaaS(共同配送・貨客混載) (→「モノ」の移動に着目した取組みが中心)	・災害時ドローン配送 ・AIデマンド交通 ・観光MaaS (→「ヒト」の移動に着目した取組みが中心)



計画図

大滝地域の中心部に位置する道の駅大滝温泉
人の交流と物流の拠点化計画(イメージ)



物流拠点化・ダッシュボードシステム管制拠点化(イメージ)



大滝振興会館1F

あくまでも想定イメージのため、今後の検討や関係者との協議により、変更する可能性があります。

【コンパクト】事業一覧

[illegible]

【スマート】事業一覧

[illegible]

【レジリエント】事業一覧

[illegible]

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	最新値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
全体共通	Society5.0推進事業におけるサービスを受けた市民満足度(%)	0%(R2年度) ※サービス開始前のため、0%	100%(R7年度)	100%(R11年度)	「Society5.0推進事業」の開始年であるR2年度から測定 ※サービスを利用した住民に限り、調査を行う。
コンパクト	大手宅配事業者(複数事業者)における大滝地域内の1日あたりの物流トラック運行台数(台)	5台(R3年度)	3台(R7年度)	0台(R11年度)	「Society5.0推進事業」の計画当初の値に基づく ※数値は台数
スマート	観光交通経路検索サービスの利用回数(回)	300回(R4年度) ※見込み	1071回(R6年度)	7,000回(R6年度)	観光交通経路検索サービスの検索クリック数
スマート	秩父市ダッシュボードシステム(市民向け)アクセス数(回)	25,000回(R6年度)	— (R7年度は令和8年3月31日調査予定)	50,000回(R11年度)	
レジリエント	域内(秩父市内)における災害時に活用可能な蓄電機能が備わっているEVの普及台数(台)	3台(R4年度)	5台(R6年度)	5台(R7年度)	秩父市役所で所有するEVの台数に基づく
レジリエント	平常及び災害時のフェイズフリーにおけるモビリティハブの整備数(箇所)	0箇所(R7年度)	0箇所(R7年度)	5箇所(R11年度)	